市街地付近でもクマが出没しています! 秋に向けて、今から準備を

今年は、これまでに13件(7月15 日現在)のクマの目撃情報が報告されて おり、市街地付近でも出没しています。 クマは、急に出会うと襲ってくることも あり、大変危険です。クマを集落に寄せ 付けないよう工夫し、また出会わないよ うに注意しましょう。



クマ対策の基本

基本的にクマは人間を怖がる動物です。人の存在を知らせたり、エサになるものを与えないこ とで、集落への侵入を防ぐことができます。

クマと出会わないために

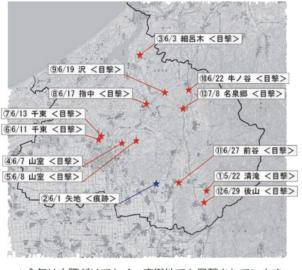
- 鈴や笛、ラジオなどを鳴らすか、大きな声で 話しながら歩くなど、自分の存在を知らせる。
- 山際の集落では、早朝や夕方、夜間の散歩や ジョギングは控える。

クマを集落へ来させないために

- 家の周りに生ごみなどを捨てたり、置いたりせ ずに持ち帰る。
- 庭先の収穫しない柿やクリなどは、放置しない で早めに取り除く。
- 車庫や小屋の戸を閉めて、鍵をかける。
- ※ 人の気配を察知すると、容易に逃げ込める建物に隠れる ことがある。
- ※ ガソリンや漬物などの強いにおいに誘引されることがある。

クマに出会ってしまったら

- 騒がず、走らず、クマに背を向けず、ゆっく り後退する。
- 子グマでも絶対に近づかない。
- ※ 子グマの近くには、親グマがいる場合がある。





▲クマを呼び寄せる放置された柿

秋に向けた準備を



▲市内の放置された柿の木に 付けられたクマの爪痕

クマは、山奥にある木の実を食べる動物です。しかし、近年は人里 近くの果樹に餌付いてしまうことが多いです。放置された柿やクリは、 クマを呼び寄せる原因となります。クマが冬眠前のエサを求めて活発 に活動する前に、放置された柿やクリなどは全て収穫するか、それら の木を伐採するなどの対策をお願いします。

認知症かな?まずは早期発見!症状に気づいたら相談を

福井県では、現在、高齢者の約1割が認知症になっています。厚生労働省の推計によると、全国では 2025年に認知症高齢者が約730万人(高齢者の5人に1人)となる見込みです。誰もが認知症とと もに生きる可能性があり、誰もが介護者として認知症に関わる可能性があります。

▼「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」 の違い (一例)

項目	加齢によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験したこと	一部を忘れる (例) 朝食メニュー	全てを忘れる (例) 朝食を食べたこと自体
もの忘れの自覚	ある	ない
探し物に対して	自分で努力して見つけよ うとする	誰かが盗んだと人のせいに する
日常生活への支障	ない	ある
症状の進行	徐々に進行	進行する





困りごとの

らない が心配認知症の治療を中断していて症状の 認知症かもしれない が、 病院に行きたが

進行

うに対応していいか困っている・認知症と思われる症状が強くて、用にうまく結びつかない ービスの どの

続けられるよう、早期の段階で支援します なっても住み慣 化したり、 につながらない 認知症は早期に受診しなかったために悪 進行する恐れがあります。 状況を回避し、 た地域で安心-した生活が 認知症に 支援

知症の予防は、 **動をしよう** 生活習

活や対人関係に支障が出ている状態を言います

(およそ6

社会生

カ月以上継続)。

年をとれば誰でも

なることによって、

認知症とは、

脳の細胞が死んでしまったり、

働きが悪く

記憶や判断力の障害が起こり、

っ

て

61

ま

す

?

のこと

キングや体操などの有酸素運動が

なかったり、

認知症

は

「加齢によるもの忘れ」

とは違い

新しいことを覚えるのが困難になり

、ますが、

塩分を控えめに、

ランスのよい

食事を

出したいことをすぐに思い出せ

例えば、

体験したことすべてを忘れてしまうことや、

認知症の可能性があります

_ _

ースや新聞などを見て、

情報に敏感

青魚や野菜、果実をたくさん食べま

よう

の忘れの自覚がない場合は、

認知症に関する困りごとは、 「あわら地域包括支援センター」に相談しましょう

家族や友人と会話を楽しみましょう。

耒中支援チ

らう。

好奇心と行動力を

あわら市健康長寿課内に「あわら地域包括支援センター」が設置されています。認知症に関 する困りごとや心配ごとの解決にむけてサポートします。気軽にご相談ください。

問合せ あわら地域包括支援センター (健康長寿課内) ☎ 73-8046